

大会名称: 第61回国民体育大会(のじぎく兵庫国体)

バスケットボール競技

開催場所: グリーンアリーナ神戸 Eコート

試合区分: No. 314 少年男子 準決勝

期 日: 2006(H18)年10月3日(火)

主審: 安本 正彦

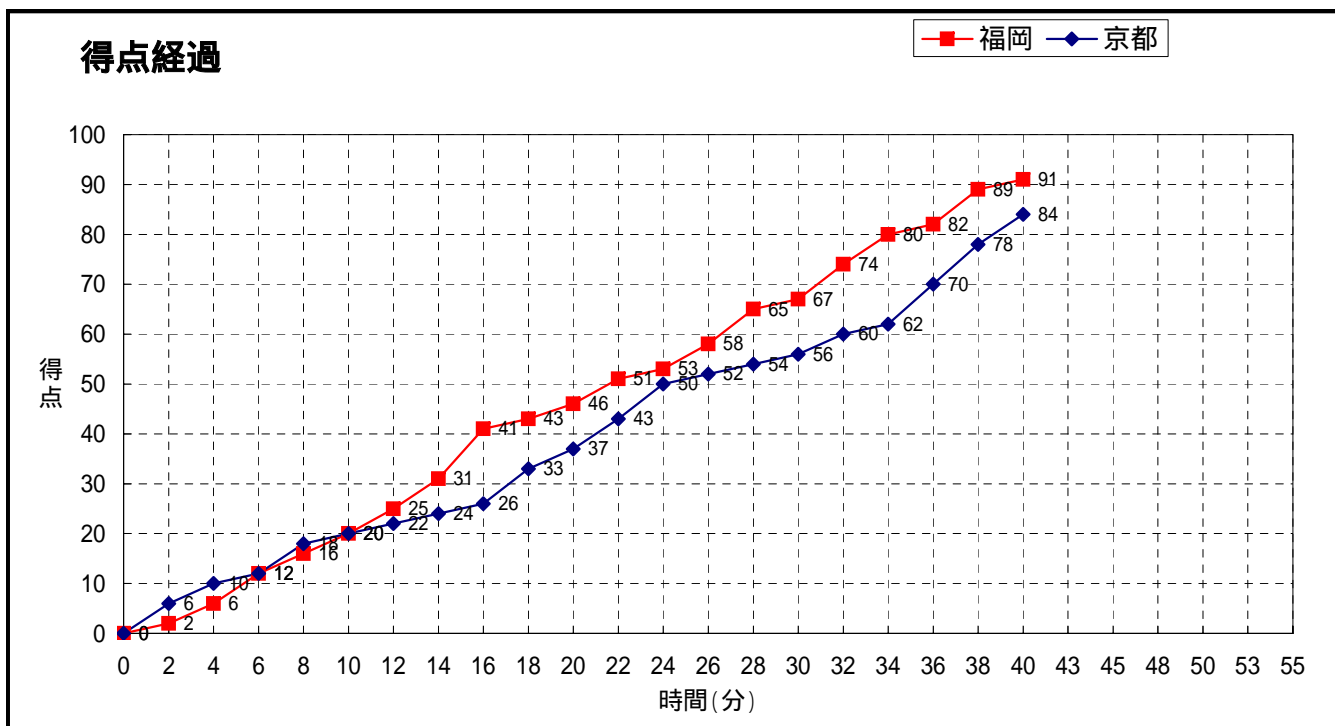
開始時間: 13:30

副審: 野口 浩正

終了時間: 16:49

福岡						京都									
91						84									
(九州)						(近畿)									
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4		見儀 雅之	15	5	0	0	1	4	*	竹本 涼	7	1	2	0	3
5	*	橋本 竜馬	8	2	1	0	3	5	*	湊谷 安玲久司朱	24	2	7	4	3
6		本村 遼介	-	-	-	-	-	6		井関 慎平	0	0	0	0	3
7		田中 大輔	-	-	-	-	-	7		金井 賢治	0	0	0	0	1
8	*	酒井 祐典	14	2	4	0	4	8		永原 龍徳	-	-	-	-	-
9	*	金丸 晃輔	22	0	11	0	3	9	*	田村 晋	9	1	1	4	1
10		姚 天翼	-	-	-	-	-	10	*	辻 直人	26	2	9	2	1
11		久保田 遼	8	0	4	0	2	11		加藤 貴大	-	-	-	-	-
12		山口 堯彰	-	-	-	-	-	12		柳田 将人	-	-	-	-	-
13	*	熊 吉	10	0	5	0	2	13		谷口 達朗	-	-	-	-	-
14	*	並里 成	14	0	7	0	2	14		比江島 慎	6	0	3	0	0
15		早川 ジミー	-	-	-	-	-	15	*	谷口 大智	12	0	6	0	1
コーチ 井手口 孝						コーチ 作本 信夫雄									
合計			91	9	32	0	17	合計			84	6	28	10	13

S: スターター PTS: ポイント 3P: 3ポイントシュート 2P: 2ポイントシュート FT: フリースロー F: ファウル



ゲームレポート

第1ピリオド。両チーム共早い展開の中、京都#5湊谷、福岡#13熊が1on1をしかけていく。残り3分福岡#9金丸の目の冷めるようなドライブインでシュートを決める。しかし、京都は#5湊谷のジャンプシュート、#10辻の速攻で対抗し、一進一退の攻防が続き20-20の同点で第2ピリオドへ。  
 第2ピリオド、開始1分、京都#4竹本がアウトレットパスをカットし、バックシュートでシュートを決めると、すぐさま福岡#4見儀が3Pシュートを入れ返し、応戦する。両チーム共ディフェンスを頑張る中、残り4分、福岡#13熊がミドルレーンを走り#14並里の、絶妙なパスをうけ、そのままレイアップシュートを決め流れをつくる。その後、ディフェンスで集中力を発揮し、#4見儀の3Pシュート、#11久保田の巧みなインサイドプレーで一気に10点差をつけたところで、京都がタイムアウト。京都は#5湊谷のインサイドにボールを集め、ディフェンスに揺さぶりをかけ1on1を仕掛けていく。残り14秒福岡のタイムアウト後、6点差の攻防の中、ラスト1秒#5橋本がトップから鮮やかな3Pシュートを決め、46-37の福岡9点リードで後半へ。  
 第3ピリオド出だし、福岡はディフェンスとリバウンドに集中し、#9金丸の1on1を中心に得点していく。しかし、京都も常に早い展開で攻め続ける中、#15谷口のバスケットボールカウントで流れをつかむと、#9田村、#10辻の連続シュートで一気に1点差まで詰め寄る。福岡はその流れを断ち切るように、#4見儀の3Pシュートで反撃すると#8酒井、#5橋本が冷静にシュートを決め、67-56の11点差まで再びリードを広げ京都の追撃を許さない。  
 第4ピリオド、京都は#10辻のドライブインシュートが決まると1-2-2のゾーンプレスから3-2のゾーンでプレッシャーをかけ流れを変えようとするが、福岡は冷静にパスを回し、#9金丸のジャンプシュート、#14並里の速攻などでリードを広げていく。残り3分、京都は#5湊谷にボールを集め#9田村のバスケットボールカウントなどで得点差を縮めにかかるが、福岡は#14並里のトリッキーなドリブルワークや、終始安定した#9金丸のジャンプシュートでゲームをコントロールしていく。京都は最後まで粘りを見せるが、福岡の確率の高いアウトサイドのシュートを抑えることができず福岡が91-84で決勝進出を決めた。

担当者: 初谷 洋志(兵庫県バスケットボール協会)

(財)日本体育協会・(財)日本バスケットボール協会